



一般社団法人北海道大学山とスキーの会 2024 年度第 3 回理事会議事録

日 時 2024 年 9 月 24 日(火) 19:00～21:00

場 所 ZOOM 電子会議

出席者 (理事) 森 (代表理事)、丸谷 (議長)、三代、長島、関、伴、関戸、吉村、深田、堀内 (10 名)
(監事) 福島

欠席者 武藤、寺山、秦、牧野 (4 名)

資 料 議案書

内 容 2024 年度 法人化後の会の運営についての事務局報告と理事からの提出議案について

1. 理事会の成立：議長は、理事 14 名中 10 名の参加を確認したので、定款に則り、この理事会を成立とすると宣言した。
2. 議事録の作成：議長は議事録の作成者として堀内を指名した。
3. 事務局報告
 - (1) 任意団体から法人組織への移管手続きについて三代（会計）より以下を報告した。
 - ① シルバーロッジの電気、水道、電話、WiMAX(Wi-Fi)の名義変更手続きは全て完了した。
 - ② 上記の料金自動支払いに関する引き落とし口座変更手続きは電気（北電）を除き完了した。北電の口座変更は今一度確認してみる。
 - ③ 会員からの会費振込はゆうちょ口座をそのまま利用しているが、口座の名義変更は完了している。
 - ④ シルバーロッジ・むいね小屋基金は北洋口座から GMO あおぞらネット銀行口座に残高を移行中。
 - ⑤ パラダイス会計は北大からの振込はゆうちょ口座で、関連金額を GMO 口座に移行中である。
 - ⑥ 今年度の現役支援の 20 万円は、6 月末に北洋銀行から振込済みである。
 - (2) 任意団体解散手続きについて丸谷（業務執行理事）より報告をした。
 - ① 会員には任意団体の解散手続きを行ったという連絡を行った。（7 月 28 日発信の HUSV-ML）
 - ② 現役に貸与している車両の所有者は現在黒澤氏になっているが、現役と黒澤氏との間で法人の所有に切り替える手続きをお願いしている。
 - (3) 法人会員数の管理状況について三代（事務局）から以下を報告した。
 - ① 6 月の総会報告時点（2024 年 5 月 31 日現在）では、291 名。
 - ・ 特別会員：5 名
 - ・ 永年会員：63 名
 - ・ 普通会員：223 名
 - ② 8 月 1 日現在では、289 名で 2 名減少し Web 掲載している。
 - ・ 特別会員：5 名
 - ・ 永年会員：61 名（田邊顕人氏、中村晃忠氏が退会）
 - ・ 普通会員：223 名
 - ③ 入会者は、正式には総会承認後に会員リストに加える。退会希望者は即時決定。
 - ・ 保坂豊氏（186）の入会は来年度総会後にリスト反映する。
 - ・ 河合博司氏（260）の退会は、次回リスト更新時に反映する。
 - ④ 今一度確認して、正確な会員数を把握しておく。



- (4) (3)について、理事より質問があり、丸谷（業務執行理事）から以下を回答した。
新卒部者の意思確認は、今回全員の意思確認を行った。次年度以降も同様に確認作業を継続する。この点は大切な手続きであることから手漏れの無いようにする。
- (5) 当年度会費納入状況について三代（会計）から以下を報告した。
- ① 2024 年度会費収入予算計画：
 - ・ 前受会費（2024 年度分/63 名）：¥302,500
 - ・ 当年度納入会費（160 名分）： ¥762,500
 - 合計 :¥1,065,000
 - ② 現在までの納入実績
 - ・ 前受会費（2024 年度分/63 名）：¥302,500
 - ・ 当年度納入会費（160 名分）： ¥207,500
 - 合計 : ¥510,000
 - ③ 納入率： $¥510,000/¥1,065,000= 48\%$
 - ・ 上記は純粋な当年度会費の納入進捗状況と言えるが、これまでも永年会員からの寄付金と会費滞納者からの過去の会費納入額を加えて何とか 100%を超えていた。
 - ・ 総会后議事録送付時（7 月 27 日）に納入依頼を提出し、その後 8 月末迄は納入が続いたが 9 月に入ると止まってしまっている。
- (6) (5)の報告を踏まえ、丸谷（業務執行理事）は、会費の納入率が法人化後も変わりなく低いことへの対応策として、これまで通り年明けに未納者に対しての 2 回目の納入依頼を継続することを指示した。
- (7) 当年度支出の状況について三代（会計）および堀内（理事）より以下を報告した。
- ① 支出金額はほぼ予算計画どおりに進んでいる。
 - ② 当年度の会費収入と支出を比較すると、約 100 万円の収入に対して、支出が計画どおり 180 万円の支出となると、その差額は主に前年度繰越金を減らす結果となることから、現状の一般会計において十分な会費収入で成り立っていると勘違いしないようにお願いしたい。
 - ③ もちろん、180 万円の支出額の中には法人化初期の特別経費が加わっているので、例年の支出額より増えているが、こなゆき 30 万円、ロッジ関連費 30 万円、現役支援 20 万円、予備費 20 万円を合算するとそれだけで 100 万円の支出で会費収入とバランスしてしまうことに留意すること。
- (8) Website の進捗状況について堀内（理事）より以下を報告した。
- ① 現在は、会員に必要な情報が掲載されることを中心にコンテンツを徐々に増やしている。会員に限定して提供したいコンテンツは P W 入力で会員専用ページに到達する形を取っている。
 - ② 法人になったことで一般向けに広告しなければならない定款等の情報は、トップページのヘッダーメニューに入れて紹介しているが、「一般への山スキーの普及」等の目的に向けたコンテンツは、これからの先の課題としており、会員専用ページの充実を優先させている。
 - ③ 記念誌、イベントカレンダー、ロッジ図書リスト、会議資料や議事録、各支部から M L への投稿情報等、気付いたものから追加をしている。
 - ④ 会員および一般の方からの双方向コミュニケーションツールとしての機能は、その応答に関する準備態勢が整っていないことから蓋をしており、まだサイトの URL を知る人にだけ公開している。
 - ⑤ サイトは、世界中で一番多く使われている WordPress というアプリを使って管理しているが、そのスペシャリストが会員の中に居れば、チームに加わって欲しい。



- ⑥ 会員リストおよび会員名簿は、会員専用ページに限定して掲載する。

4. 理事・支部長報告および提案

(1) 20241129_迎雪コンサートについて森（代表理事）より報告

- ① 国本氏(164)のルーテルホール利用紹介により森（代表理事）が企画した
- ② 長靴合唱団がメイン（最低でも 30 名参加希望）
- ③ 会員やその家族・友人の音楽関係者の参加を募集中
- ④ 正式名称は「山スキー部 60 周年迎雪コンサート」としたい

(2) 20250222~25_無意根スキーツアーについて丸谷（業務執行理事）より報告

- ① 3泊4日で実施予定
- ② 秦氏（329）が森（代表理事）からリーダーを引き継いだ

(3) 202502_白馬集会について長島（理事）より報告

- ① 日程は2月最初の土日案で検討中。場所はこれから決める。
- ② 長島、関で詳細を企画中。

(4) こなゆき第47号編集について堀内（理事）より報告

- ① 2021年から世代別編集委員を置いてスタートし、3年後には交代することとしたが、編集長も含めてその人選で難航している。
- ② 世代別編集委員は前任者から卒部年度を4年スライドした候補者とこれから交渉して決まった段階でメインテーマを中心とした企画会議を開催したい。
- ③ 理事より、編集長は、法人になった記念すべき第1号なので、今回の編集長は堀内で継投して欲しいとの意見が提出され、こなゆきの役割である会員の絆を保つためにも、第47号を今期内で発刊すべく努力すると堀内は回答した。
- ④ 新編集委員のメンバー指名については、会長および理事のみなさんからの支援と協力をお願いする。

(5) 吉村、深田（理事）より寄付募集案が提出

- ・ 現役支援として「登山技術・知識向上を目的とした講習会開催」の費用を山スキー部OBから寄付を募集したいので山とスキーの会の了解を得た上で実施したい
 - ・ 具体的な講習会企画はすでに内容と日程まで決まっており、その費用概算も約60万円としている。内容は雪崩講習を中心として、気象講座、救急救命、クライミングを含んでいる。
 - ・ 提案者は、阿部(幹)、川端、竹本、上野、石塚、松岡、深田、吉村の8名。
 - ・ 金額の半額は山岳部の負担を期待して目標金額30万円の寄付を募りたい。
 - ・ 寄付の受け皿として北大フロンティア基金も活用したい。
 - ・ 現役は4年目が藤巻1名のみであり、3年目が8名居るがコロナ等で経験不足や知識不足もあり、このような講習会を受講することを希望している。
 - ・ 以前から阿部(幹)氏は現役向けの講習会を企画実施しており、資金は竹本氏と協力して負担して来たが今後の継続が困難になってきたことが背景にある。寄付を募るについては理事会の理解と協力を求めたいので、今回の理事会で提案をすることとした。
- ① 質問と意見交換（ ）内は提案者の回答。
 - ・ 現役支援として良い提案であると思う。過去の講習を受講した経験からも内容は有効であると思う。法人の会に残らなかった人もこの提案のメンバーに2名入っていることから、現役支援という目



的が一緒であるならば何故会に入って一緒にやらないのかなという疑問はあるけれど。(今回の提案をきっかけに、今後の経過報告や意見交換、協力を通じて最終的に融和する方向に進めたい。)

- ・ 単年度だけ寄付を募るのか、毎年そうするのか？(今の段階では詰めて考えていないが、単年度で受講するより、現役がもっと考えて必要性や有効性をしっかり考えるべきと思っている)
- ・ 下級生全員が受講するよりも、ある程度受講生を絞り、その受講者が責任を持って内容を部内に拡散するようなあり方も検討してはどうか。受け身ではなく、人に教えるという行為が内容をより充実させることもあるので。
- ・ 資金が足りなくなったことからの提案のように見受けるが、本来は現役支援としての講習会内容について、山とスキーの会に提案し、この会議で出ているような理事や会員の様々な意見やアイデアを加味しながら現役ともしっかり協議しながら進めるべきものであると思う。そのような中味についての協議はできないのだろうか。(今回の企画は既に8割がた決まった内容として捉えており、雪崩講習会等については動かさないし、時間的に協議している時間も難しいと思う。気象やその他の項目については、その余地が残されているかも知れない。)
- ・ 雪崩防止研修会の10月から2月の計画は、山スキー部専用で行うのか。(確認が必要)
- ・ 山岳部OB会も金額支援については、検討中で支出は決まっていない。
- ・ 山とスキーの会として寄付を募るためには、金額の前に企画内容について審議することが先決であるので、それが時間的に難しい状況の中では、山とスキーの会から会員に寄付を依頼することは難しい。従って、北大フロンティア基金を活用したり、発起人有志の人から会員に向けて依頼を出すことになるかと思うが、そのようなケースは過去において3回経験しており、いずれも会の口座とは別に個人口座を開設して、寄付を募り入金を行って来ているので参考にして欲しい。

② 提案者からの補足説明

- ・ 吉村、深田の2名は会の中で自由闊達な提案を許す風土と、それによって会が分断するようなことにならないことを心から願っている。
- ・ 提案の内容については、寄付金を有効に使うための工夫や、現役が受け身にならない工夫、良い講習内容の部内蓄積の方法であったりを現役がもっと考えるべきであると思うが、一方でこの冬をどう乗り切るかを藤巻主任と一緒に考えて、今回はその思いに寄り添いたい。
- ・ 一方、現役は山とスキーの会からの20万円の支援金を使い難い要因として、古くなった共同装備類の買換え金額総額が約90万円にも上っていることから、金額的な不足をどう補うか困っているという話も聞いた。リストを受け取り、全部を一気に更新するのではなく、一部更新から始めて不足分を段階的に会に相談するかするようにアドバイスしたい。(現役は39万円蓄積している。更に北大体育会や学生支援課からの援助もあるはずで確認して欲しい)

③ 理事からの提案者への補足意見と質問

- ・ 丸谷(業務執行理事)より気象に関する講習は無償で行っていただける講師を紹介できるので相談して欲しいという申し出があった。
- ・ スキーの講習会はやらないのかな？
- ・ 山とスキーの会の継続的に行える講習会支援について継続検討できないだろうか。
- ・ 山スキー部部長には、もっと現役と会との橋渡しをお願いしたい。



④ 議長は、この提案について以下を結論とした

- ・ 山とスキーの会の会員有志から HUSV-ML を通じて寄付を募ることについて会は了解する。
- ・ 上記提案や内容の充実について提案者は順次現役や他の有志と協議を進める。
- ・ 山とスキーの会は、今後の成り行きを見ながら、現役支援の講習会等について、内容や予算を継続検討課題とする。

以上の決議を明確にするため、堀内がこの議事録を作成し、出席した会長及び監事がこれに記名押印する。

令和 6 年 10 月 1 日

一般社団法人北海道大学とスキーの会

会 長 森 康



監 事 福 島 裕 之

